

タカラバイオ株式会社 2022年3月期通期決算(補足資料)

1. 2022年3月期通期決算について

【決算短信 13 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は、676億9,900万円、前期比216億1,300万円(46.9%)の増収となりました。
- ・ 「試薬」は、546億500万円、前期比194億1,600万円(55.2%)の増収となりました。内訳としては、一般研究用試薬が290億円(前期は221億円)、新型コロナウイルスPCR検査関連試薬が256億円(前期は130億円)となり、ともに大幅に伸長しました。特に、一般研究用試薬は、前期はコロナ禍で低迷しましたが、現在は、コロナ禍前に策定した目標(年率7%成長)の水準にまで到達し、過去最高売上となりました。
- ・ 「機器」は、15億1,800万円となり、前期比▲2億800万円(▲12.1%)の減収となりました。新型コロナウイルス検査向けPCR装置の需要が減少したことが減収の一因です。
- ・ 「受託」は、114億2,600万円となり、前期比25億2,500万円(28.4%)の増収となりました。製薬企業を中心に遺伝子・細胞治療薬の開発が活発化しており、再生医療等製品関連受託が好調でした。また、遺伝子解析・検査関連受託では、大型ゲノムプロジェクトが増収に貢献しました。さらには、新型コロナウイルスワクチン関連受託も加わり、「受託」全体で初めて売上高100億円を突破しました。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は492億1,100万円となり、前期比173億3,900万円(54.4%)の増益となりました。
- ・ 「試薬」、「受託」の増収および原価率低減により増益となりました。

(営業利益)

- ・ 研究開発費、人件費に積極的に投資したため、販売費一般管理費が増加しましたが、売上総利益の伸長が大きく、営業利益は、289億200万円、前期比149億4,900万円(107.1%)の増益となりました。
- ・ 新型コロナウイルスPCR検査関連試薬の上振れの影響を受け、売上高、各利益項目とも過去最高となりました。

(配当)

- ・ 期末配当を1株あたり、前回予想(2月10日)の30円から3円増加の33円に修正します。
- ・ 前期からは17円の増配、配当開始以来、10期連続の増配となります。

※ 当社定時株主総会(2022年6月)付議予定

2. 2022年3月期通期決算(前回予想:2月10日公表)との比較

- ・ 新型コロナウイルス PCR 検査関連試薬の需要が前回予想時より高く、連結売上高は前回予想を 26 億 9,900 万円(4.2%)、売上総利益は同じく 27 億 3,500 万円(5.9%) 上回りました。販売費一般管理費は、ほぼ計画の通りとなったため、営業利益は、前回予想を 29 億 200 万円(11.2%) 上回りました。

3. 2023年3月期業績(予想)について

【決算短信 14 ページ】

(売上高)

- ・ 売上高は、553 億円、前期比▲123 億 9,900 万円(▲18.3%)の減収を予想しています。
- ・ 「試薬」は、410 億 1,000 万円、前期比▲114 億 6,800 万円(▲21.9%)の減収を予想しています。一般研究用試薬は、290 億円(前期は 269 億円)と増収となるものの、新型コロナウイルス検査関連試薬は需要減により 120 億円(前期は 256 億円)と大幅に縮小すると予想しています^(注)。
- ・ 「機器」は、14 億 7,100 万円と前期から微減を予想しています。
- ・ 「受託」は、102 億 1,200 万円、前期比▲12 億 1,400 万円(▲10.6%)の減収を予想しています。再生医療等製品関連受託は増収予想ですが、遺伝子解析・検査関連受託とワクチン関連受託は減収を予想しています。遺伝子解析・検査関連受託の減収は大型ゲノムプロジェクト案件の終了が要因です。
- ・ 「遺伝子医療」は、26 億 600 万円、前期比 3 億 3,100 万円(14.6%)の増収予想です^(注)。

(注)2022年3月期まで、「試薬」に含めていた GMP グレード(再生医療等製品製造用)の試薬類等の売上高を、2023年3月期から「遺伝子医療」に加える変更を行います。この結果、「遺伝子医療」の売上内訳は、従来の対価料収入および治験製品販売に当該試薬類等が加わります。上記の「試薬」、「遺伝子医療」はこの変更を反映しています。

(売上総利益)

- ・ 売上総利益は、378 億 5,500 万円、前期比▲113 億 5,500 万円(▲23.1%)の減益を予想しています。
- ・ 減益は、主に新型コロナウイルス PCR 関連試薬の減収の影響によるものです。

(販売費一般管理費、研究開発費、営業利益)

- ・ 販売費一般管理費は、228 億 5,500 万円、前期比 25 億 4,600 万円(12.5%)の増加を計画しています。主に、研究開発費、人件費を増加させる計画です。
- ・ 研究開発費は、78 億 2,000 万円、前期比 17 億 1,100 万円(28.0%)増加させる計

画です。計画を前倒しにして、創薬基盤技術、製造技術に積極的に投資します。

- ・ 営業利益は、150 億円、前期比▲139 億 200 万円 (▲48.1%) の減益を予想しています。

(配当)

- ・ 期末配当は、2022 年 3 月期と同様の1株あたり 33 円の予想です。
- ・ なお、2023 年 3 月期より、配当性向を、連結財務諸表における特別損失を加味せず算出された想定当期純利益の 30%台後半を目途とするように配当方針を見直します。
- ・ 業績予想にあたっては、2023 年 3 月期中も、新型コロナウイルス感染症の影響が一定期間継続することを前提としています。業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

4. 新型コロナウイルス関連事業の状況について

- ・ 新型コロナウイルスの PCR 検査関連製品 (試薬、装置) の販売、ゲノム解析サービス、ワクチン関連受託を行ってきました。また 2022 年 3 月 17 日に抗原検査キットの製造販売承認を取得し、販売を開始しました。
- ・ 2022 年 3 月期は PCR 検査関連試薬の需要が高く、売上高は 256 億円となりましたが、2023 年 3 月期は、検査需要は、急速に縮小する前提としており、新型コロナウイルス検査関連の売上高は 120 億円と予想しています。
- ・ 売上高の予想にあたっては、国内外の主要取引先との情報交換や各国の規制や検査動向を参考にしました。

(参考:新型コロナウイルス検査関連試薬売上)

期間	21/03 期	22/03 期	23/03 期(予想)
売上高(億円)	130	256	120

※ 23/03 期(予想)は、PCR 検査関連試薬と抗原検査キットの合算。

5. 遺伝子医療事業の状況

- ・ 脳指向性に優れた新規遺伝子治療用 AAV (アデノ随伴ウイルス) ベクター CereAAV™ を開発しました。現在は、動物実験の段階ですが、さらに応用開発を進め、製薬企業などへの技術ライセンス活動を行う予定です。
- ・ 大塚製薬株式会社との共同開発プロジェクトである NY-ESO-1・siTCR® 遺伝子治療薬 (開発コード TBI-1301) に関しては、引き続き両社で承認申請の準備を進めています。

- ・ その他、遺伝子改変 T 細胞療法として、JAK/STAT シグナル伝達系を活性化させる次世代型 CAR の基盤技術開発を進めています。同開発では、CD19・JAK/STAT・CAR(開発コード:TBI-2001)が前臨床試験を終え、早期に治験開始を目指すほか、固形がんを対象とした新規JAK/STAT・CARの応用技術開発にも重点を置く方針です。このため、CEA・GITR・CAR(TBI-2002)の開発を中止しました。

以上